

関東学院と私

本学科教員 矢嶋 道文

専門分野は江戸時代の文化（思想）と社会
担当科目は日本文化史他

Q. 残り少ない関東学院での生活ですが、今振り返って率直な感想をお願いします。

A. 入学してから50年目ですが、これで関東学院大学（母校）とのご縁が切れるわけではありませんので、むしろ関東学院大学との新しい関係のスタートと考えています。今のところ、部活指導（空手道部部长）、研究活動（貝原益軒『大和本草』研究）、教育指導（学部・大学院生）、地元での活動（葉山郷土史研究会）を行っています。したがって、大学生活は一旦卒業しますが、継続する部分もあり「残り少ない」という感覚は余りありません。今はひたすら前に進んでいるというところでしょうか。

Q. 比較文化学科の学生の雰囲気は？

A. これはもう「最高」と言わざるを得ません。女子短大教員を経て比較文化学科に移籍してからは、自由な課題で卒論を書かせる喜びに浸った10数年間でした。ゼミだけではなく、授業の全てが楽しく幸せでした。大学院（比較日本文化専攻）も含め釜利谷の自然が育んだ雰囲気なのではないでしょうか。

Q. 「関東学院大学」の良さを聞かせてください。

A. 50年間いましたが、良さは「のんびりしている」ところです。とくに今のキャンパスはそうです。他学部の雰囲気は良くわからないのですが、今をときめく小泉進次郎さん（経済OB）にもそのような雰囲気があるのかもしれない。

Q. 関東学院大学の歴史を、学生時代を含め、見られてきたと思うのですが、変わった点や変わらない点はあるのでしょうか？

A. (1)変わった点：六浦キャンパスが全く変わりました。昨年法学部が小田原からの移転を終え、新しい校舎が完成いたしました。従来の7号館

（50年前の新館）の隣に建てられ、大学としての雰囲気が出来上がったと思います。

(2)変わらない点：校訓「人になれ 奉仕せよ」の尊重と、「のんびりした雰囲気」です。

Q. 葉山の郷土史研究会との活動は今後とも行なっていくのでしょうか？

A. 葉山町が「町制」90周年を迎えた2015（平成27）年、研究会はそれまでの実績をもとに町から依頼された「施行90周年記念『葉山町の歴史とくらし』」を刊行しました。今は2019（平成30）年ですから、6年後の100周年記念誌との関わりが直近の問題です。葉山郷土史研究会「古文書部会」の皆さんが毎年「襖（ふすま）はがし」実習指導に来校されたほか、今年で25回目となる葉山町民大学（本学と提携）など、今後とも葉山町との交流が続くと良いですね。

——— 入学50年目にあたり、このような回答機会を与えてくださったことに心から感謝いたします。思い出の大事な一コマになりそうです。



2017年2月3日（70歳誕生日）の卒業旅行
（13期生と箱根芦ノ湖にて）